

同志社大学 研究開発推進機構「研究センター」自己点検・評価報告書

年 月 日

研究センター名 (英 文 名)	エネルギー変換研究センター Research Center for Energy Conversion System
研究センター長	(所属) 工学部 (職名) 教授 (氏名) 千田二郎
設 置 期 間	2003年 4月 1日 ~ 2008年 3月31日

当該研究センターの以下に示す各項目について、1(不可)~5(良好)の5段階にて評価するとともに、研究経過・成果報告書に基づき、自己点検・評価を行ってください。

1. 共同研究組織の形成状況

共同研究のネットワークの形成状況、形成した共同研究組織の特徴、有機的連携、人材の育成についての点検・評価

評 価

4

【点検・評価 長所と問題点】

共同研究組織・ネットワークの形成は各分野とも非常に合理的・有機的であると考えられる。またそれぞれの外部の研究機関とも共同研究が連携して実施されている。しかし、分野においては連携実施が不十分なところがある。

【将来の改善・改革に向けた方策】

今後、海外機関を含めて共同研究機関との連携を、国際セミナーなどの実施も含めてより充実させる。

2. 当初研究計画の実施状況

当初の研究計画に対する進捗状況、研究成果の論文・著書、学会・会議での発表状況、研究会・講演会等の開催状況、研究費執行の妥当性についての点検・評価

評 価

4

【点検・評価 長所と問題点】

研究内容 ~ は、おおむね予定通りの進捗である。一部、の燃料サイクル論的研究での外部との共同実施ができていない。また研究内容のLCA的な総合評価研究は、この研究プロジェクトがほぼ終了した時点で学外の国立研究機関などの連携実施が主な内容となるが、この点も不完全である。

【将来の改善・改革に向けた方策】

研究内容の具体的な実施方策を今後、学外研究者で詳細に検討する。

3. 教育・研究への貢献状況

同志社大学の教育活動との関連性、同志社大学の研究活動との関連性についての点検・評価

評価
5

【点検・評価 長所と問題点】

様式1にも記載のとおり、(1)学生への研究成果の波及 (2)学内省エネ活動への参画 (3)現代GPでのエコタウンデザイン提案への協力 など大きな成果をあげている

【将来の改善・改革に向けた方策】

4. 専門的及び社会的な評価

関連する学会等での研究センターに対する評価、学内外に与えたインパクト並びに社会的な評価についての点検・評価

評価
3

【点検・評価 長所と問題点】

センター長・千田二郎の関連する学会では、本センターの積極的な宣伝に努め、大きな関心を集めているが、センター所属のほかの研究者の関連学会での評価に関しては定かではない。

【将来の改善・改革に向けた方策】

本センターが管轄する関連学会での評価の集約

5. 新たな学問領域等の創出

研究活動による新たな学術的知見の創出、研究成果の活用の見通し及び副次的な効果についての点検・評価

評価
3

【点検・評価 長所と問題点】

様式1に記載した、種々の内容の新たな研究の展開は多くあるものの、新たな研究分野の創出までに行いたる項目はそれほど多くはないと感じる。

【将来の改善・改革に向けた方策】

各研究分野の研究レベルの客観的・定量的な評価をどこかで行いたいと考える。